



## 今、日本の特殊鋼業に求められている研究開発の課題

専務取締役  
工藤 健雄

技報第11巻第1号の発行に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

長らく低迷してきました日本の特殊鋼生産量も平成14年度から急速に増加に転じ、平成15年度は、1905万トン記録する見込みです。

この増加要因はアジア経済の活況、とりわけ中国経済の躍進によるところが大なるものであることは、申すまでもありません。

さらに、中国の鉄鋼生産の著しい増加の余波を受け、世界の鉄鋼業界は大幅な原燃料価格の高騰に直面しております。

日本の特殊鋼業界は鉄屑価格の高騰で目下は利益なき繁忙と言われる状況です。

アジア経済そのなかでも中国経済の活況が北京オリンピックおよび上海万博の2008年～2010年頃迄は持続すると見られる以上、原燃料価格の高騰を製品価格に転嫁をする機を捉えて自らの存在感を創ることが、鉄鋼業界・特殊鋼業界における営業面の大きな課題です。

一方、研究開発部門の大きな課題は、現在、品質・価格両面で世界NO.1と言われている日本の特殊鋼の技術力をこれからも維持し、更に向上させていくために従前以上の格段の努力と工夫が求められ、その成果を製品価格で需要業界に評価されるように取り組んで行くことであります。

現在、品質面で日本の特殊鋼に比べて劣勢にあると言われる米国の特殊鋼は、日本の鉄鋼メーカーの技術指導および自主努力により数年内に現在の日本の特殊鋼の技術水準に達するものと想定されます。

(昨年、当社は米国の特殊鋼会社マックスチール社と自動車用鋼の製造技術に関して技術提携をした。)

また、現状では日本の特殊鋼に品質面では大幅に劣位にある中国の特殊鋼も、1997～1998年頃から大幅に更新された最新鋭設備を駆使した上で今後の自動車・産業機械生産の増加に伴いQCDD面で日本の特殊鋼を追い上げてくることは十二分に想定されることです。

したがって、今、研究開発部門に求められているのは、中国の特殊鋼が日本の特殊鋼にキャッチアップするまでの間にコスト競争力のある新製品・新技術の開発に一段と注力することが肝要です。

一方、中国の自動車・産業機械生産の増加とともに中国での部品需要は著しく増加することになりますが、中国国内の生産では、供給が需要に追いつかない可能性が大きい為、高付加価値部品については、日本がその供給基地になることが予測されます。特殊鋼は自動車・産業機械部品の心臓部を形成するものですか、これらの部品業界のうち将来性を見込める企業と密接に連携して部品業界の要請に十分応えられる製品の開発に一段と注力する必要があると考えています。

近年当社は、素形材分野で、自動車・産業機械部品業界の現地生産の要請に応えるべく米国、中国に合弁会社を設立いたしました。(本報P78 工場紹介をご参照ください)

これらの合弁会社の素形材製品については、当社の高潔度鋼溶製技術に支えられた高信頼性軸受鋼ならびに構造用鋼をベースに、研究開発部門と日本国内の素形材製造子会社とがタイアップして、品質、製造技術ならびに新製品開発について尽力する所存であります。

皆様方の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。